



赤目まちづくり委員会・市民センター

たきこちゃん通信

11

2021年
月号

発行/赤目まちづくり委員会(赤目市民センター)〒518-0465名張市赤目町丈六238-1 電話/FAX63-0329 E-mail/akame-ko@emachi-nabari.jp

災害は、忘れた頃にやってくる。

赤目まちづくり委員会 会長 亀本和丈

景色は、すっかり秋化粧をはじめテレビのニュースに於いても各地の紅葉の素晴らしさの放映が目立っている昨今、赤目まちづくりに対する地域皆様の温かいご協力とご支援に心より感謝申し上げます。

地元赤目四十八滝に於いても先月 10 月 23 日から来年 1 月末まで不動滝付近を拠点として「幽玄の竹あかり」大イベントが開催され、その規模は、昨年を遥かに上回る 1500 基の竹あかりが所狭しと並べられ、毎日県内外の自動車をはじめ電車やバスによる入園者により、相当なにぎわいを見せている処です。

また国内に於きましても新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う対策規制は、全て解除され、人々すべてが心身の解放と経済の再生に希望と一抹の不安の残る日々をお過ごしではないでしょうか。加えて自然災害のニュースも後を絶つ事無く、地震や土砂災害の発生等についても度々耳にする処であります。私共が万が一の時、一番大事な事は慌てず冷静に行動することです。その行動が日頃の訓練ではないでしょうか？現在の気候変動は非常に厳しく、世界各国が英知を結集しており、夏の気温・雨量の多さ・風の強さ等観測史上初めてであるとか、50 年来、100 年来、加えて記録的短時間大雨警報など耳慣れのしない言葉の今日この頃であります。これ等を踏まえ名張市に於きましても 11 月 20 日に、令和 3 年度名張市防災訓練が実施される事となり、当赤目町と致しましても市の方針に伴い防災訓練を実施の予定であります。各地域・皆様方に於かれましても、日々の暮らしに危機感を持ちながら、今回の訓練にご理解を頂き是非共、ご参加賜りますよう心よりお願いを申し上げます。

名張市防災訓練実施

日時 11/20(土) 午前 9 時から避難開始

避難場所 各地区の一時避難場所

(当日までに確認しておいて下さい。)

赤目竹あかり SDGs プロジェクト活動活発に開催

10/9(土) 赤目四十八滝キャンプ場で、赤目竹あかり SDGs プロジェクトのモニターイベントとして小学生とその保護者を対象とした「火おこしと竹飯ごう」を実施。10/14(木)に錦生赤目小学校 6 年生(31 名)対象の「竹あかりづくり」を午前・午後の二班で実施。10/24・31(日)の両日に、赤目四十八滝キャンプ場で、体験観光プログラムとして宿泊客各 5 家族を対象とした「竹あかりづくり」を実施。



市民センターまつり開催

10/30(土)～11/1(月)の3日間、「赤目市民センターまつり」を開催。31日選挙の投票会場でもあり、3日間で約450名余りの方の観覧がありました。



「隠(なばり)学 歴史講座」も同時開催

市民センターまつりと併設して、10/30(土)10時より隠学歴史講座を開催。講師に、松鹿昭二氏(伊賀中世城館調査会 会長)を迎えて、「天正伊賀の乱と柏原城」の公演。地元の話と会って、予想以上の来場者 40 数名を迎え、「非常に勉強になった」、「地元の祖先が活躍したことが、感動的で素晴らしい」など喜びの声。



館外学習・赤目歴史散策実施

10月16日(土)晴天のもと、「赤目丈六と錦生」を巡る歴史散策を実施。丈六の八幡神社を初めに、丈六寺から水神さんの横(初瀬街道)を通って高橋橋を渡り、名張市民俗資料館へ。資料館では、山崎さんの説明を受け、赤目地区の農機具、縄文・古墳時代の埋葬品・陶器等を見学。また2階で、オオサンショウウオや各教室の紹介を受けた。お昼は、鹿大神社で休憩をとり、宇陀川沿いに矢川橋～矢川春日神社へ、上三谷・白山(秋葉)神社へと。帰りは、上三谷より山越えで一の井・極楽寺経由市民センターへ。



名張市指定ゴミ袋取扱、紙おむつ専用ごみ袋(無料交付)

特大 45 リットル 10 枚 480 円・大 30 リットル 10 枚 300 円・中 20 リットル 10 枚 180 円・小 10 リットル 10 枚 80 円
紙おむつ専用ごみ袋は、対象者一人当たり 30 枚以内。

赤目まちづくり委員会
赤目市民センター
ホームページ



赤目まちづくり委員会・市民センターの情報がホームページでご覧いただけます。※スマホ・携帯電話で左の QR コードを読み取って下さい。また市民センターでは、無料 Wi-Fi が使えます。

※「たきこちゃん通信」は、今後赤目まちづくり委員会の地縁法人化に伴い「赤目まちづくり通信」(仮称)と変更予定。

齋宮歴史博物館見学

この度、第1回館外学習「齋宮歴史博物館見学」を開催致します。「齋宮」は今から約1300年前、伊勢神宮の祭祀に奉仕する皇女「齋王」が住んでいたところです。明和町・史跡齋宮跡地内に建設された県立齋宮歴史博物館を初め「いつきのみや歴史体験館」をボランティアガイドさんの案内で共に巡るバスツアーを企画しました。



- ・開催日 12月1日(水)
午前9時出発～午後3時ごろ解散予定
- ・集合 赤目駅前(大型バス乗車)
- ・内容 明和町の齋宮歴史博物館・いつきのみや歴史体験館の史跡内を散策します。(お昼は、いつき茶屋の予定)
※参加費は、当日ご持参ください

- ・持ち物 参加費3,000円(昼食代・保険代含む)、水筒、マスクなど。
- ・受付開始日 11月22日(月)までに、下記申込書をご記入の上、赤目市民センターにお申し込み下さい。名張ケンコー!マイレージポイント対象です。
定員25名になり次第締め切ります。

(新型コロナウイルスの感染予防の為、状況により中止になる場合があります。)

館外学習「齋宮歴史博物館見学」に参加を申し込みます。

ふりがな
名 前 / _____ (年齢 _____ 歳)
住 所 / _____ 電話番号 / _____



車上狙い・不審電話にご注意!!

「お金が戻ってくる」「ATMで還付金が受け取れる」「介護保険の払い戻しがある」などは、還付金詐欺です。知らない人から電話があったら、いったん切り家族・知人、警察などに相談ください。名張警察 62-0110
名張市役所・市民相談室 63-7416

11月4日～12月5日までの予定

月	火	水	木	金	土	日
11/8	9	10 ふれあいサロン	11	12	13 市議会報告会	14 赤目みんなの運動会中止
15	16	17	18	19	20 市防災訓練	21
22	23 	24 ふれあいサロン 忍たま広場	25	26 市民センター 消火避難訓練	27 電神山トレッキング	28
29	30	12/1 齋宮歴史博物館見学	2	3	4 ダム見学ツアー	5

※赤目市民センターでは、コロナ対策として、検温・マスク着用・消毒・換気、名簿の作成など、3密(密集・密接・密閉)を避けて運営しています。しかしながら状況に応じ、中止・延期になる場合がありますので、ご注意お願い致します。

12月の行事予定



- ★12/8(水) ふれあいサロン
- ★12/11(土)～12(日) 和風づくり
- ★12/15(水) ELP健康教室
- ★12/16(木) サンサンカレー
- ★12/22(水) ふれあいサロン・忍たま広場
- ★12/30(木) 赤目歳末警戒
- ★12/29(水)～1/3(月) 年末年始休館日

赤目消防団 防災訓練 11/7(日)
朝6時から8時 錦生赤目小学校
※当日サイレンが鳴ります。ご注意ください。
*10月中旬より丈六ポンプ庫解体・建替え中

Vol. 22 歴史散策紀行…「赤目文化遺産」 (各区・地域の名所・名品を募集しています。)

生命の源 Part2. 「伊賀の名水」

赤目の名水に続いて、「伊賀の名水」と「食」の話を。名張には、名張川をはじめ宇陀川、青蓮寺川、滝川、小波田川、シャックリ(シャクリ)川等多くの川が流れている。また、新田用水や名張地区の城下川(築瀬水路)、平尾用水などが張り巡らされている。古来より名張の人たちは、川とともに数々の歴史を刻み、そして、生活用水・農業用水・交通・産業として恩恵を受け、時には水害などの被害を受けながら、水と共に暮らしてきた。また、景勝地としての赤目四十八滝・香落溪・青蓮寺、比奈知の2つのダム湖を抱え、まさに名張は「水のまち」と言える。

また、その地ならではの地酒や豆腐、お菓子といった特産品にも、名水は欠かすことができない存在。テレビコマーシャルで一躍有名なサンガリアのミネラルたっぷり「伊賀の天然強炭酸水」は、鈴鹿山脈、信楽山地、布引山地の花崗岩層(かこうがんそう)から自然ろ過で育まれた伊賀盆地独自の名水・天然水(硬度10～30mg/Lの軟水)に炭酸を注入した炭酸水。ミネラル分のシリカにはコラーゲンやエラスチンなどの繊維や組織を強力につなぎ合わせる働きがある。シリカ(ケイ素)を多く摂取している人は、そうでない人に比べ骨密度が高く、骨や歯、爪、髪の毛などの強度を保つ上で欠かせない。

昔から伊賀地方で親しまれてきた伝統銘菓『丁稚ようかん』。水ようかんと聞くと夏のお菓子ですが、伊賀地方では「冬のお菓子」として知

られている。水ようかんより甘さが控えめで、舌触りと口解け感がよく、みずみずしい伊賀の丁稚ようかんは、蒸し羊羹と違い日持ちがしないため、冷蔵庫がなかった昔は夏場は作っておらず、冬季限定のお菓子だった。10月に入ると新小豆(あずき)が収穫されて味も香りもさらに美味しく味わえる。アンが一番美味しい旬の時期に作っていたから、寒い冬に暖かい部屋でよく冷えた丁稚ようかんを頂くのが、元々の伊賀の食べ方だとか。名張でアズキと云えば、賛急屋さんの「名張饅頭」。赤目は、たまきやさんの「へこきまんじゅう」。

また夏は、伊賀の芭蕉に縁の深い水都・岐阜大垣発祥の「水まんじゅう」。伊賀地域は関西淀川三川のひとつ、木津川源流の里、清流の輝きが込められた逸品。特に最上級の国産葛を使ったもので、中に忍ばせたこしあんは、どこまでもトロリと葛の喉ごしや口さわりが良く。広く文人墨客の方々に人気の逸品。豆腐田楽も有名で、豆腐は伊賀産の木綿豆腐を使用し、切った豆腐を手作りの竹串に刺し、両面素焼きにした後、伊賀独自の玉味噌と木の芽を合わせた味噌を塗って焼く、春の訪れを感じる伊賀のおもてなしの料理。

日本ではかつて「水と安全はタダ」と言われ、水は非常に安価または無料だとされていたが、今はお金を払ってでも欲しいものが、「水と安全」である。

